

教師の資質向上を目指した授業リフレクション研究部

研究主題

教師の資質向上を目指した授業 リフレクションの在り方

中
佐
青
水
河
小
石
三

田
木
柳
橋
野
川
川
浦

泰
由
真
紀
公
川
文

志
里
紀
恵
子
圭
典
光

所沢小学校教諭
北秋津小学校教諭
清進小学校教諭
明峰小学校教諭
安松小学校教諭
美原中学校教諭
小手指中学校教諭
上山口中学校教諭

研究協力

早稲田大学人間科学学術院教授

浅

田

匡

担当指導主事

高 橋 敏
山 下 豊
新 井 江 里 子
塚 田 幸 久

教師の資質向上を目指した授業リフレクション研究部研究報告(概要)

【研究主題】 教師の資質向上を目指した授業リフレクションのあり方

【教材(学年)】 小学校3年・4年・5年・6年・中学校1年・3年

【概要説明】

本研究では、教師の授業力を向上するために、教師が自らの教授行動をふり返し、改善していく授業リフレクションの研究に取り組んだ。1年次となる本年度は、次の二つの方法を取り上げ、実践を通してその方法を理解し、次年度への課題を明らかにすることに努めた。

○ビデオ視聴をもとにした授業リフレクション

授業を録画したVTRを視聴しながら、事実とその解釈をカードに記述し、KJ法により課題を焦点化して指導案を改善する方法。

○授業日誌による授業リフレクション

日々の教授活動の中で気になった子どもの姿の記述を積み重ね、対応した手立て等の個票を行動分類して指導の方策を見出す方法。

【本研究のキーワード】

- 授業リフレクション
- 授業改善
- ビデオによる授業のふり返し
- KJ法
- 指導案の改善
- 授業日誌法
- 個票
- カリキュラムへのフィードバック

I 研究主題

「教師の資質向上を目指した授業リフレクションのあり方」

II 主題設定の理由

「生きる力」を育み、「確かな学力」を身につけるということが、教育における最重要課題である。そのために教師の授業力の向上が叫ばれている。

私たちの研究の指導者である早稲田大学 浅田匡 教授は、教師が教えることの専門性を獲得することについて、『教えること』の省察」であり、「省察とは自らの授業実践を対象化し自らの実践から学ぶということである。」と説明している。そして、教師について、『教えることを学ぶ存在』であり、それは省察をすることによって『自らの授業から学ぶ存在』であり、更に子どもに即したカリキュラムを作っていくために、自らの授業を研究する存在なのである。」と述べている。自分の授業を客観的に捉え、分析をすることは本人にとって精神的なハードルが高い。しかし、あえて自分の授業を対象化し、検証を行うことで、成功や失敗もふくめて多くの知見が得られるのではないだろうか。まさに教師にとっての生きた教材が授業であるとも言えるのである。ところが、現実的には、授業の最終的な児童の変容に重きを置いて、その指導経過のよしあしが判断されることが多く、子どもの思考過程における教師の細かい手立てはあまり重視されてこなかった。

そこで、本研究では教師の授業実践を対象化する手立てとして授業リフレクション法を取り上げ、授業改善策を明らかにし、教師の資質向上の研究に取り組むこととした。

Ⅲ 研究の内容及び方法

研究内容

本年度は、教師自身が授業リフレクションの方策を理解するとともに、実践の積み重ねを通してその方法に習熟する。同時に、授業リフレクション法を通して教師自身の教授行動を客観的に捉え、自己理解を図り、授業改善のプロセスを明らかにする。

授業リフレクション

ビデオ視聴をもとにした
授業リフレクション

授業日誌法による
授業リフレクション

1 授業リフレクション法について

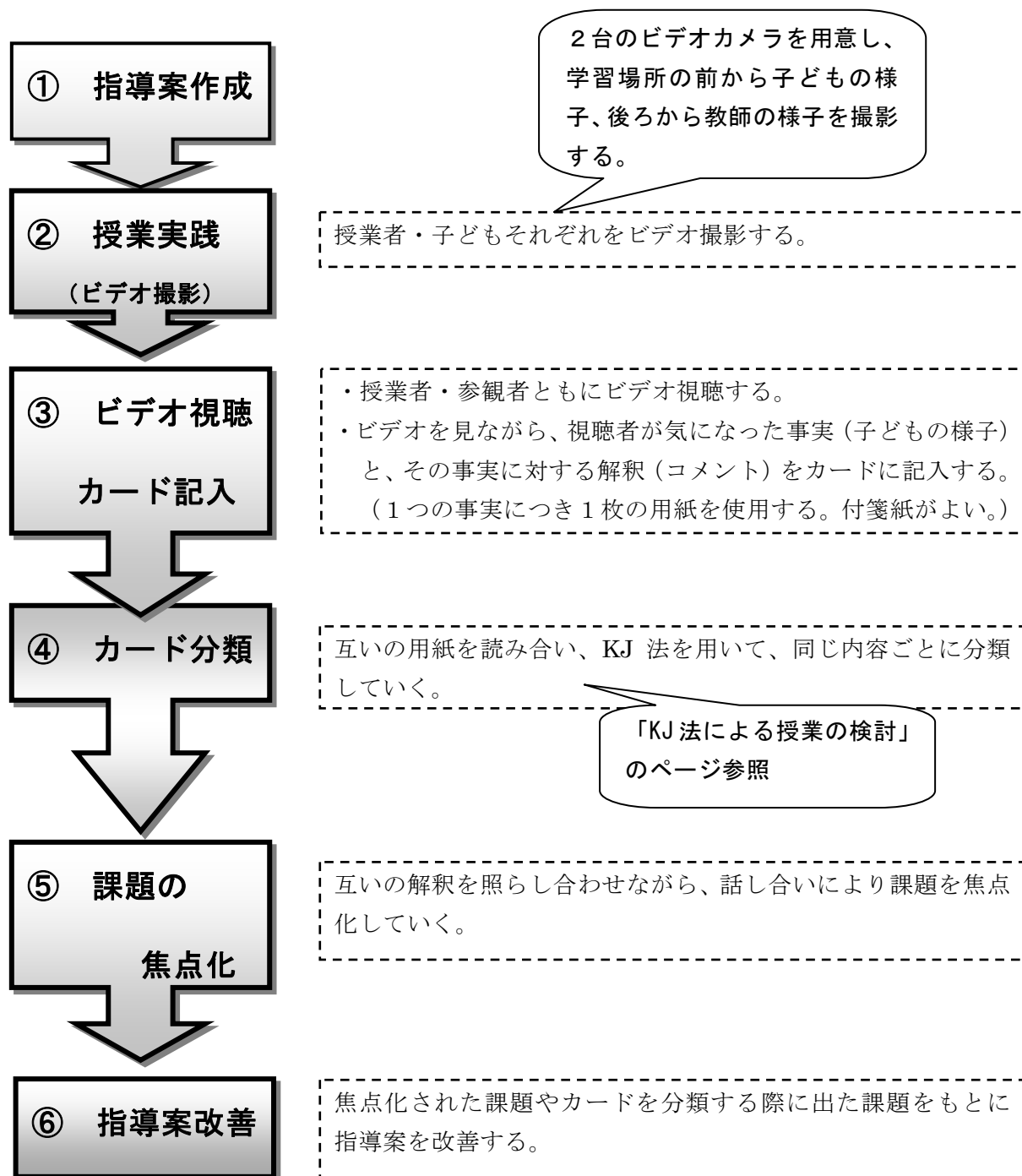
授業リフレクションとは、教師が自らの教授行動を反省し、改善していくために行うふり返りである。校内で研究授業を行い、その後研究協議という、多くの学校で行われている授業研究会も、広義の意味での授業リフレクションといえる。

授業のVTRを視聴して行うリフレクション、授業者が自分の授業を記述しふり返りながら授業スタイルの改善を目指す授業リフレクション、参観者と授業者が1対1で行う対話リフレクション、多くの教師が参加して行う集団リフレクションなどがある。自己リフレクションは、研究の客観性が問われる危険性があるので、自己リフレクションの経過と結果を第三者に説明し、実践者が共同で検討する対話リフレクションや集団リフレクションが望ましいとされている。

そもそもリフレクトとは、「反響する」「反映する」という意味である。浅田匡教授は次のように記している。「教師と子ども、あるいは子ども同士の関係性が成立してはじめて教えることが成り立つが、教師と子どもが互いに学びあうことを通して変化していくために、互いの変化を受け入れることが求められることになる。すなわち、教師にはリフレクティブな思考様式が求められる。」(教育セミナー関東 2005 in 所沢 研究冊子P.26 2005 日本教育新聞社)つまり、教師が学習の主体者である子どもの学びの姿を客観的にとらえ、その事実と解釈を自己の授業スタイルに反響・反映させて、授業を改善していく営みが授業リフレクションなのである。

2 具体的な研究方法

(1) ビデオ視聴をもとにした授業リフレクション



※ **KJ法**：蓄積された情報から必要なものを取り出し、関連するものをつなぎ合わせて整理する手法の一つ。カード(紙片)を使用することに大きな特徴がある。発案者の川喜多二郎氏のイニシャルをとってこう呼ばれている。

(2) 授業日誌法による授業リフレクション

① 授業者が自分の授業を振り返り、気になった状況を1～2週間継続して記述する。

ア 小学校用記述用紙

日時	科目名	対象児童	気になった状況	対応した手立て	手立てを用いた理由	授業・単元計画等へのフィードバック

イ 中学校用記述用紙

日時	クラス	対象生徒	気になった状況	対応した手立て	考えられる手立て 1	考えられる手立て 2	考えられる手立て 3	対応した手立て

- ・ 1日を振り返り、気になった状況を書き出し、特にない場合は記入しない。
- ・ 気になった状況はできるだけ具体的に書く。

② ふり返りの用紙をもとに個票を作成する。

小学校

日時	科目名	対象児童
気になった状況	対応した手立て	
手立てを用いた理由	授業・単元計画等へのフィードバック	

中学校

日時	クラス	日時	クラス
対象生徒		対象生徒	
気になった状況		気になった状況	
対応した手立て		考えられる手立て	
対応した手立ての理由		対応した手立ての理由	

③ 個票を項目ごとに分類し、学年の特徴や手立てについて分析・考察する。